

# 31E13-pm06S

中国四川省産薬用植物 *Salvia grandifolia* の化学成分

○小宮山 哲平<sup>1</sup>, 大崎 愛弓<sup>1</sup>, 黒田 智明<sup>2</sup>, 齋藤 義紀<sup>3</sup>, 岡本 育子<sup>3</sup>, 通 元夫<sup>3</sup>,  
Xun GONG<sup>4</sup>(<sup>1</sup>東医歯大・生材研, <sup>2</sup>立教大理, <sup>3</sup>徳島文理大薬, <sup>4</sup>昆明植物研)

【目的】中国雲南省北西部から四川省南西部にまたがる横断山脈地域に生息する植物は、その入り組んだ地形ゆえに植物の分化、多様化が進んでいると言われている。我々は、この地域に生息する植物について、その化学的遺伝的調査を継続的に行ってきた。本研究では *Salvia* 属植物に注目し、*Salvia grandifolia* の化学成分探索を行った。

【方法】*S. grandifolia* の根部分について、MeOH 抽出を行った。抽出物について、含水 MeOH に溶解させた後、Hexane、EtOAc を用いて分配操作を行った。分配によって得られた Hexane 層、EtOAc 層について各種カラムクロマトグラフィー (ODS, Silica gel)、HPLC を用いて分離操作を行った。単離された化合物は、1D、2D NMR や IR, MS を用いて構造解析を行った。さらに得られた化合物について殺細胞活性試験を行った。

【結果】*S. grandifolia* の根部分より、6 種の新規転位型アビエタンジテルペンおよび 11 種の既知化合物が単離された。いくつかの新規化合物は、HeLa および HL-60 に対して穏やかな活性を示した。